

新型コロナウイルス感染症の 経口抗ウイルス薬（飲み薬）

市民病院
薬局監修

ID 751376216（ほのか診察室）
問合せ 市民病院（代表）TEL 22・2171

■経口抗ウイルス薬とは

経口抗ウイルス薬とは、新型コロナウイルス感染症の患者に投与できる治療薬（飲み薬）のことです。

現状、安定提供が困難なことから、供給が安定するまでの間は国で買い上げ、治療を行う医療機関および対応薬局に無償で提供されます。

■経口抗ウイルス薬の処方

経口抗ウイルス薬は、コロナ陽性患者すべてに投与されるわけではなく、重症化リスク因子があり、医師が必要と判断した方に処方されます。院外処方箋でも対応でき、医師が処方箋を対応薬局に送付し、薬局は患者の自宅などに配送することで処方されます。



■経口抗ウイルス薬の種類

●「モルヌピラビル」

（販売名：「ラゲブリオ」）

アメリカ製薬メーカーで開発され、令和3年12月に軽症患者用の初の飲み薬として承認されました。国内ではこれまでに28万人以上に投与されています。

ウイルスが細胞に侵入したあと、ウイルスの設計図となる「RNA」をコピーする際に必要な酵素の働きを抑え、増殖を防ぎます。

投与対象

- ・18歳以上
- ・軽症から中等症1の患者
- ・高齢者や肥満、糖尿病などの重症化リスクのある患者
- （胎児に影響がでるおそれがある女性には服用できません。）

服用方法

発症から5日以内に、1日2回、5日間服用します。
重症化リスクのある患者の入院や死亡のリスクを約30%低下させ、

有害事象がでた割合は薬を服用した群と偽の薬を服用した群で変わらなかったとされています。

●「ニルマトレルビル・リトナビル」

（販売名：「パキロビッド」）

アメリカ製薬メーカーで開発され、令和4年2月に特例承認されました。

モルヌピラビルとは作用メカニズムが異なり、ウイルスが自身のRNAをコピーして増える準備段階で働く酵素を機能しなくすることで増殖を抑えます。

投与対象

- ・12歳以上
- ・軽症から中等症1の患者

服用方法

1日2回、5日間服用します。
令和3年年12月にメーカーが公表した臨床研究の分析結果では、重症化リスクのある患者に対して、発症から3日以内に投与を始めた場合には入院や死亡のリスクが89%低下し、発症か

ら5日以内に投与した場合でも88%低下したとしています。

また、有害事象がでた割合は薬を服用した群と偽の薬を服用した群で頻度は変わらず、ほとんどが軽症だったとしています。

薬注意点

- ①一緒に服用することが禁じられている薬（禁忌薬）がおよそ40種類あること
- ②腎臓機能が低下している患者に対しては用量の調整が必要であること

診察時には定期通院している医療機関の有無、服用している薬などを確認し、処方可能な場合こちらが選択されることとなります。

現在も治療薬の研究は進められており、効果が高く副作用の少ない薬の登場が期待されます。